



リーディングスキルテストの効果的な活用を考える

7月31日(月)、燕市中央公民館にて第2回研究主任会を行いました。今回は、教育のための科学研究所 目黒 朋子 様をお招きし、リーディングスキルテスト(以下、RST)の受検結果を個別最適な学びにつなげるための方策について、ご講話いただきました。RSTの結果の効果的な活用方法を知ることができました。ご講話の内容のポイントを以下に示します。

- 今年度から、受検した児童生徒の画面に表示されているフィードバックコメントの内容を変更した。コメントを把握し、学習指導に役立てていただきたい。
- コメントを活用して児童生徒が読解力育成の視点で学習に取り組む方法の1つとして、「RS(リーディングスキル)ノート作り」を提案する。コメントをノートに貼り、書いてあることを活用して学習を進めてみてはどうか。
- 読解力の視点は、授業者における授業改善だけでなく、学習者における学びの改善にも役立つ。読解力の育成は「両輪」で考えていくと良い。



【参加者の感想(一部抜粋)】

- ・RSTの結果がきてもどのように活用したら良いか分からなかったですが、RSノートの具体的な活用方法を教えていただき、2学期から取り組んでみようと思いました。
- ・フィードバックコメントを元にした研修の形が大変理解しやすく、RSを意識した学習法を実感することができました。RSノートの内容への取組を検討したいと思います。
- ・RSノートという新しい指導法を教えていただき、大変有意義な研修でした。まず、授業の中でこの方法を取り入れて、やがて、児童が自分で使えるようにしていきたいと思っています。また、フィードバックコメントは児童にとってはもちろん、教師側にもどんな指導をすると、その子にとって効果的かを知るために参考にしていきたいと考えています。
- ・RSノート作成を実際にやってみて、この活動を継続してやれば確実に学力(RS)は高まると思いました。とても優れた取組だと思うのですが、行うのであれば各自ではなく、燕市全体で本気になって取り組んでいかなければならないと思います。

参加者のアンケートから、有効な方法であると感じた方が多かったようです。筆者自身も、大変参考になるお話でした。今回の講話の動画を、期間限定で「つばめつながる広場(研修会・講演会)」に掲載します(9月29日まで)。ぜひご覧ください。

1学期の中学校区研究会について

1学期に中学校区研究会を実施した学校からご提出いただいた、「指導案」「授業実践例」「協議会記録」を、「つばめつながる広場(読解力プロジェクト)」内で閲覧することができるようになりました。各校で、授業改善の参考にご覧いただければ幸いです。

なお、2学期に実施予定の学校の分は、研究会終了の約2週間後を目安に、掲載いたします。研究会を実施した学校につきましては、情報提供へのご協力をお願いいたします。